

# ひかりのこ

5月園便り

聖ミカエル幼稚園

2012年4月24日発行

## 月主題：やってみようかな

4月10日(火)に入園式があり、次の日の水曜日から年少組さんも保護者の方々と離れ、朝、園バスに乗るときや玄関でバイバイをしました。お母さんと離れることにびっくりして泣き出す子、涙をためながら「今日は早く帰るの?」と確認する子、2階の保育室はウエーン、ウワーンの大合唱でした。中にはお母さんと一緒になくちゃダメなお子さんもいて、先生たちも猫の手も借りたいくらい大忙しでした。

ところが次の日になると泣き声もほんのわずかになり、金曜日には、それまで大泣きしていた男の子が「僕もう泣かないよ!」と宣言して帰っていきました。その宣言通り先週の月曜日には元気に登園し、一人で上靴に着替え、一人で階段を上って2階へと上がっていきました。こんなに小さいのに自分で目当てを決めて頑張ろうとする、本当に子どもはすごいものだ、と子どものたくましさ改めて感動しました。

先週には園庭の雪もすっかり消え、外遊びも始まりました。園庭にもホールにも様々な遊具があり、絵本の部屋にも面白そうな本がたくさんそろっています。いろいろなものにチャレンジして、新しいお友達をどんどん作って、世界を広げていってほしいものです。

また、保護者の皆様も、機会を見つけては園の行事等にご参加いただき、子育て中の今しかできないお母さん同士、お父さん同士のつながりや、お子さんと一緒に出来る体験をしていただきたいと思います。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

今日は翼もない人間が空を飛んで、宇宙までも飛んで行くような科学の時代です。倫理とデータによって証明されないものは正しくないと思われる時代です。目に見えないもの、手で触り確認できないものは簡単に理屈に合わないと言われます。逆に理屈さえつけれるならば何でも正しいと主張出来る時代でもあります。しかし、皆がそれぞれの理屈で自分の正しさを主張する今日のこの世はだんだん良くなって行くどころか、むしろさらに駄目になっているような気がして空しさを覚えます。

一例として、原子力、放射能の話がそうです。皆がそれぞれの論理とデータをもって理屈に合う話ばかりをしています、話を聞けば聞くほどそれでどうしたらいいのかはさらにわからなくなるような気がします。正直に疲れを覚えます。

聖書には次のような言葉があります。「**人間の前途がまっすぐなようでも、果ては死への道となることがある。**」(箴言14:12) 理屈さえつけれるならば何でも正しいと主張出来るこの時代のために与えられたみ言葉のような気がします。論理とデータ、理屈は大切なものです。しかし、これらがすべてではないということがミカエル幼稚園では学べます。家族のためのお父さんの苦労とお母さんの献身、兄弟同士の思いやりと譲る心、他者のための犠牲など、論理とデータ、理屈とは関係ないものが沢山あるから、まだこの世は美しいということをとともに学びます。これがミカエル幼稚園のキリスト教保育です。

チャブレン 司祭 ジョシュア 李 香男